

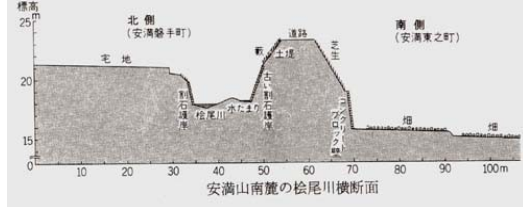
V.G 概輪だより

会報 第 55 号
発行日 平成21年4月30日
発行・編集 V・G 概輪
代表者 大岡成一
http://web1.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介 高槻の歴史を今に伝える地域：安満地区

檜尾川（ひのおがわ）

成合谷の南端で、安満山と紅茸山との間の狭隘部と南北方向に切つて淀川底部に顔をだした檜尾川は、そこで急に流路を南東に変え、安満山の南麓に沿つて山手町と萩之庄との境界まで山麓線に沿つて曲流したのち、ふたたび流路を南に転じて前島町の南方で淀川に合流している。



この安満山南麓沿いに曲流する檜尾川の現流路はほぼ等高線に平行しており、本来等高線を切つて流れる性質を有する河川の流路としてはきわめて不自然な様相を呈している。

円上の等高線の存在であり、この地区が往時の檜尾川によつて形成された扇状地であることを示している。すなわち現在の流路に固定される以前の檜尾川は谷口を出たあと南方へむかつて乱流し、そこに土砂を堆積して小さな扇状地を發達させたのであり、このことは京大農場を中心とする安満遺跡の数次にわたる発掘調査によつて、檜尾川の旧流路又はその分流と推定される水路跡が確認されたことによつても裏付けられる。

磐手神社

磐手公民館から消防署の前を通り山手へ折れ、約10分歩くと堤防の急坂を登り檜尾川を渡つた処に磐手神社があります。

天兒屋根命ほか3体を祭神とするこの神社は、天智天皇の5年、藤原鎌足がこの地に勧請して安満神社と称したと伝えられ、12世紀ごろ春日社となり、さらに明治44年に現在の社名になりました。春日の名を冠



したのとは当時安満一帯が奈良春日大社の荘園であったためと見られていました。磐手神社の神輿渡御神事は、高槻市指定無形民俗文化財です。

毎年5月5日に執り行われ、通称「馬祭」と呼ばれている。その記録は貞享2年（1685）の「村馬番書」までさかのぼることができ、祭礼は一ノ馬座と二ノ馬座・三ノ馬座の二座を中心とした宮座の氏子中による、初夏の季節の農耕儀礼である。

磐手地区の古い岩石信仰のなごりとも見られる石がここ磐手神社にもあります。高槻城の老臣長田平八郎がこの社で見つけた奇岩を持ち帰り自己の庭園に置いたところ、夜な夜な「あまえいのうな

まえいのう」と啼くので、これは霊石であると怖れ、再び社頭に返したという「夜啼き石」です。

道祖神社

磐手幼稚園の隣りに、道祖神社があります。

道祖神は天照大神より二種の神器を賜り、日高の高千穂の峰へ案内された神。村の守り神、道案内の神、縁結びの神、子孫繁栄、交通安全の守護神とされている。

【磐手神社の伝統行事について】

宮司様の説明より抜粋。

大阪府知事から許可をうけている神社は、府下で63社前後、高槻市で春日神社と称するのは7〜8社である。高槻市で神主がいて社務所のあるところは6社と少ない。殆どが兼務所である。

磐手神社の兼務神社は、成合の春日神社、塚原の八幡宮、津之江の筑紫津神社、アジャリの森稲荷神社、芝生の八幡神社、山手の春日神社（この春日神社は明治44年の太政大臣布告令により、一村一神社となり、これまで独自の春日神社であったのが、磐手神社と

5月度行事予定

“高槻の歴史を今に伝える地域：下田部地区”

月 日：平成21年5月21日（木）
集合場所：JR高槻駅南（②③乗場）12:45(12:48 発) 富田団地行き
順 路：JR高槻駅南→下田部バス停下車→札所→念寺→天満神宮→大將軍神社→サポートセンター→阪急高槻
そ の 他：念寺では住職とお話を頼んでいます

6月度行事予定

“万葉いらい恋にかけて歌われたまち：島本町”

月 日：平成21年6月18日（木）
集合場所：阪急水無瀬駅北出口 13:00
順 路：急水無瀬駅→水無瀬神社→水無瀬の滝→天神腰掛石→焼け残り
の表門→宗鑑井→山門不入碑→国界碑→離宮八幡宮→阪急山崎駅
そ の 他：ふるさと島本案内ボランティアの会の方に案内して頂きます。